
僕が確かに唄えること

翠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕が確かに唄えること

【Nコード】

N6905A

【作者名】

翠

【あらすじ】

痛いくらいの彼女の姿。誰も聴いてはくれない僕だけの歌を。たった一つの確かな想いを……。

（前書き）

かなり久しぶりに書きました。
海を眺めていてふと思いついたものです。
最後まで読んでいただければ嬉しいです。

風が吹く。

肌にあたって微かな抵抗を見せる。

深い青の海を目の前に精一杯声を張り上げる人。

目を閉じ、体全身で音を紡いでゆく。

長い漆黒の髪が潮風に煽られ、なびく。

綺麗だった・・・。

あの日、僕だけの入り江に侵入してきた彼女。

決して誰も入れまいと思っていたその小さな小さな入り江に彼女の存在は僕よりも確かに・・・。

相応しかった。

小さな入り江に・・・木々の緑と海の蒼の中に・・・黄色い砂の上に・・・。

彼女の存在は確かに相応しいと感じた。

焼けるような憧れと、自分までもが驚くほどの深い憎しみを覚えた。

彼女の存在が痛かった。

彼女の存在が眩しかった。

彼女の声が苦しかった。

彼女の声が好きだった。

彼女は・・・。

喉を締め付ける・・・熱い痛みが彼女を見るたび僕を襲う。

容赦なく痛みは増していく。

彼女は僕に気付かない。

当たり前だ・・・。

隠れているのだから・・・。

気付いて欲しくないと望んだのだから。

いつまでも彼女の姿を見ていたかった。

彼女の声を聞いていたかった。

そのためなら僕はいつまでも隠れていられるだろう。

喉を・・・体中を焼く痛みに変えてでも。

それでも・・・

僕は彼女に気付いて欲しかったんだと思う。

僕のこの痛みを知って欲しいと。

彼女の存在が僕を消してしまうかもしれない。

彼女は僕にとっては毒だ。

眩しすぎて・・・。

痛みが増すから・・・。

だから今はせめて彼女のいない・・・彼女の居るべき、この場所で

彼女への思いを唄わせて。

耳を傾けてくれるのは答えてくれはしない輝く星空だけでいい。

吸い込まれるような、輝く星空だけで・・・。

僕の唄は輝く太陽の下で歌い上げられるほど綺麗なものじゃないから。

せめて誰も居ない、この静かな場所で。

こんな僕にも確かに唄える想いがあるってこと。

ただそれだけは・・・

何よりも確かだから。

今日も彼女は唄う。

漆黒の髪を靡かせて。

ただ、今日から彼女は輝く星空の下で唄うことにしてみたんだ。
僕の痛みはやっぱり消えることはなかったけど・・・
君の瞳に僕が映ることが痛いくらい幸せだよ。

僕らの歌声は星達だけが知っている。

（後書き）

最後まで読んでいただき、有難うございます。
ご意見・ご感想などお聞かせいただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6905a/>

僕が確かに唄えること

2010年10月15日11時23分発行